

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	1 2 4 3 4 1 1
園名	板橋明星幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音・音楽表現の探求

<テーマの設定理由>

当園では音楽専門講師によるリトミック、オルフの音楽指導を全年齢に定期的に行っており、日々の保育の中にも歌唱、楽器に触れる機会を積極的に設けている。

その中で、子どもたちが自ら「音」に意識を向け興味を深め「聴く力」を習得し集中力や考察力を培い、また楽器を用いての表現、演奏活動も展開し、美しい音に触れる喜びを感じ、友だちと音を合わせ楽しさを共有する体験を通し、より豊かな感性を育むことを目標としたため。

2. 活動スケジュール

- ① 多種の楽器に自由に触れ音を楽しみ、興味を喚起した。（通年実施）
- ② 楽器、音楽以外で身の回りにどのような音が自然に存在するか探した。（7月、8月に実施。保護者にも協力を依頼、園外でも行う）
- ③ サウンドスケープを行い図形楽譜を作成し音を可視化した。（10～12月に実施）
- ④ ①～③の活動を通し「音」への意識関心を高め、発見してきた音や表現を織り込んだオリジナル楽曲の合奏に臨んだ（公共施設ホールにて「すくわくプログラム第一回音楽会」を保護者も参加で実施）。外部委託講師の演奏と共に楽器を自由に鳴らして楽しんだり、音楽に関するレクチャーを受け保護者と共に学ぶ。（2月に実施）

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定・活動中の子供の姿
- ・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

① 「多種の楽器に触れ、音を楽しみ興味を喚起する」活動

オルフ楽器（木琴、鉄琴）、ジャンベ、ウッドブロック、カスタネット、タンブリン、鈴、マラカス、ギロ、ツリーチャイムを用意。4～7月は各楽器を一種類ずつ提示した。9月以降は数種類の楽器を同時に提示し楽器の素材（木、鉄、皮）に着目したり違いや特徴を考察した。

活動中は楽器の音に集中しやすいよう保育室外音をなるべく遮断し、いずれも10人以下（異年齢）でおおよそ週一回のペースで実施。

1人ずつ皆の前で触れることで集中力、考察力を喚起する。友だちの様子を見ながら自分はどうかやって触れようか、刺激を与えあいながらより深く考える様子が見られた。楽器の大きさと音の違いを聴きわけて「似ているけどちがう」「こっちのほうが大きいね」などと言いつつ合う。

音の大小は「何の動物に変身して音を鳴らそうか」と声をかけると表現の違いを積極的に楽しみ、また工夫する様子が見られた。

一例としてジャンベにおいては、鼓面をこする姿に、保育士が「太鼓はなんていっているかな？」と問うと、「ゴシゴシ！」と表現し、そのオノマトベから歯磨きを連想し、「歯を磨きましょう」の歌を楽器の音と共に発展させて楽しむ様子があった。

ジャンベを抱えて横から覗き込んでいると、傾けると音が変化することに自ら気づき、椅子にすわって楽器を引き寄せながら音を出し、響く音を探し求め正しい奏法を見出していた。

その他にも一人ひとり、指先でそっとつついたり、手のひらで思いきり叩いて感触を「音が違うね」と聴き比べたり、グーの手の形で叩く友だちを見てチョキで試したり、様々な鳴らし方の可能性を遊びながら探っていた。

また友だちと一緒に音を出すと、最初はバラバラに叩いていたが、ふと隣の子とも同士で顔を見合わせ、自然に同じリズムを揃えて刻み楽しむ様子が印象的であった。

②「楽器、音楽以外で身の回りにどのような音が自然に存在するか探す」活動

保護者へ本プログラムの活動内容を共有する活動及び夏休みの課題として行った。

保護者と共に「音探し」をすることで子どもの意欲をより高めることも目的とした。

園内外の「音探し」では記録用の画用紙、筆記用具を準備。また保護者には園だよりに探索活動の説明を記載し、理解と協力を依頼した。

子どもには「おうちのなかにはどんな音があるかな」「お外で遊ぶ時、おでかけする時にどんな音がするかな」とキッチン、玄関、公園などのイラストを伴って問いかけた。

子どもたちがみつけたものの一例として、

- ・信号の音「カッコーカカコー」
- ・雷「びりびり」
- ・自転車「じゃー、ちえちょ」
- ・ボールが体に当たった音「てん」
- ・炊飯器の音「んー」
- ・ドアが閉まる音「ひー、ちっちゃん」

など。集計後いくつかの例を発表、共有すると他児発案のオノマトペを口にして共に楽しんだり、表現の可能性を再認識する様子があった。保育者がよくみつけたね、いい音があったね、と声掛けすると「もっと探したい」と、探索活動に大変意欲的な姿勢を示した。

③サウンドスケープを行い図形楽譜の作成、演奏の活動

異年齢（3歳児2名、4歳児7名、5歳児2名）、9人で活動する。異年齢の園児が遊んでいる保育室、園庭にて「音探し」を行い、オノマトペで記録しつつ目を閉じてどのような音が聴きとる活動、視覚と併せて音を探す活動を保育者と共に行った。また、聞こえた音を線画などで自由に描き、図形楽譜を作成し、それを見ながら楽器を鳴らす。

画用紙とペン、クレヨン、小打楽器類、木琴、ピアノを用意する。

保育者が「どのような音があるかな」と声掛けすると園庭を見まわし積極的に行っていた。記録することも子どもがやりたがり、「こんなにあった」と見つけたものが増えていくことが楽しかったようで、コレクションゲームのような感覚が意欲を掻き立てていた。

保育室内では床を上履きで足踏みしたり、ブロックに手をあてたり、目に入った新聞紙を丸めたり広げたりを繰り返して音を探索していた。

図形楽譜の作成はサウンドスケープでみつけたものを思い出しながら描いたり、目の前で楽器の音を聴きながら線や点で自由に描くなどで行った。

描き上げると、音を可視化することが珍しく興味を持ったようで嬉しそうに眺めたり、積極的に興味を持ちすぐ活動に慣れた。

④「すくわくプログラム第一回音楽会」の実施

板橋文化会館小ホールにて、全園児と保護者を対象に行う。外部委託講師、演奏家にも出演を依頼。3歳児に鈴、4歳児にウッドブロック、タンブリン、5歳児にオルフ木琴、鉄琴を用意。園外のホールで行ったことで園児1名につき2名以上の保護者も参加でき、活動を広く共有することが出来た。

4月からの活動の経験を活かしながら楽器に触れ、演奏の練習、発表を通して表現を探究し、音や音楽表現を楽しみながら再考する活動として行った。

3歳児、4歳児全員での合同合奏（すず、ウッドブロック、タンブリン）「線路はつづくよ」の発表。

5歳児全員、保育者5名でオルフ木琴、鉄琴のオスティナートアンサンブルを発表。初めての音板楽器合奏の機会だったが、4月からの楽器に自由に触れ楽しむ経験やサウンドスケープを通して音へ幅広い視野で向き合う姿勢が築かれていたこともあり、皆積極的に取り組み楽しんでいた。

また外部指導講師、演奏家に企画を相談し、プロの演奏を鑑賞しながら3、4、5歳児全員でマラカスや手拍子で共に演奏に参加し、会場が一体となる形で音や音楽を自由に楽しむプログラムを実施した。

打楽器講師のレクチャーも行い、日常の保育の中で遊びながら触れている親しみのある楽器の奏法、発音の可能性を学んだ。既知の楽器から初めて聴く音がすると驚きながら目を輝かせていた。楽器の名前を問われると積極的に正確に答えたり、「幼稚園でやったことある」「(トライアングルを見て)ピーンっていう音がする楽器だ」などのリアクションを嬉しそうにしていた。

音楽会の最後には手話付きで「ともだちのはな」を歌い、全員で音楽を共有する感動を味わえたようで、涙を浮かべる親子もいた。

活動の様子

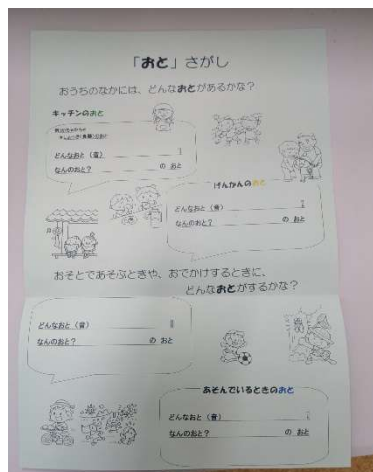
① 「多種の楽器に触れ、音を楽しみ興味を喚起する」活動





②「楽器、音楽以外で身の回りにどのような音が自然に存在するか探す」活動

【配布したプリントと振り返り】



③サウンドスケープを行い図形楽譜の作成、演奏の活動

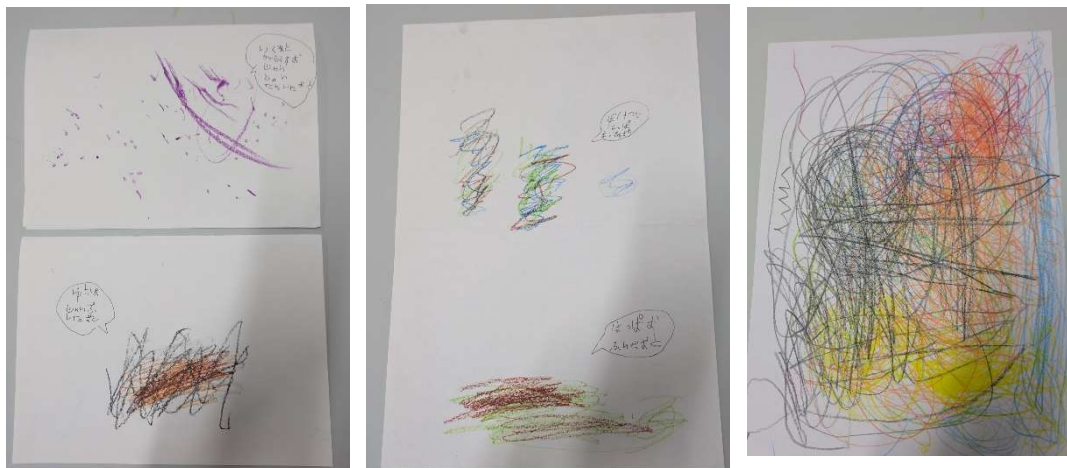
【園庭、保育室でのサウンドスケープ】



【音を聴きながら自由に描く】



【図形楽譜の一例】



【図形楽譜を見ながら自由に演奏する様子】



④「すくわくプログラム第一回音楽会」の実施

【園での練習】



【当日、演奏家のレクチャーと子どもたちの演奏発表】



4. 振り返り

振り返りによって得た先生の気づき>

① 「多種の楽器に触れ、音を楽しみ興味を喚起する」活動において

子どもの自発性を伴った積極的な音の探索が出来ていたので、子どものペースで自由に楽器とふれあう時間を設け、楽器への様々な向き合い方を促したことはとてもよかった。

また自然にアンサンブルに発展させる様子も見られ、協調性を発揮させる機会になったと感じる。子ども自身から湧き出たリズム、演奏、音の表現や友だちと活動する楽しさを味わうことが出来ており、活動の発展性を感じた。

今後は子どもから発せられたオノマトペにリズムをつけて演奏したりなど、子どもの発想を織り込んだ楽曲演奏へ発展させるなどの試みも行いたい。

② 「楽器、音楽以外で身の回りにどのような音が自然に存在するか探す」活動

ユニークなオノマトペで伝える様子から言葉の考察や探索も併せて行えることに気づいた。

またこの活動を経た夏休み後の保育中「先生こんな音がしたよ」と服の擦れる音に気づき嬉しそうに知らせる姿や、園庭で木に手の平をあてながら「どんな音がするかな」と自発的に音探しを楽しむ姿が見られ、日常における音への意識、興味、探索することを楽しむ気持ちがかかなり高まったと明確に感じた。

③ サウンドスケープ、図形楽譜の活動

音を探りたい場所、方法、表現することばをとっても積極的に考え、活動していた。表現されたオノマトペは日ごろ親しんでいると思われるよく聞くものだったが、よく見知っている場所にどのような音が見つけられるか、音への意識、好奇心、探索心、見つける喜びや楽しさを見出すことができていたと推察する。

最初は保育者と共に「存在しているものを聴きとる」行動を積み重ねていくと、次第に、「自ら音を発して聴き取り、オノマトペを考え表現し、友だちや保育者に伝えあい共感する喜びを味わう」行動に発展していく様子がうかがえた。併せて、自ら工夫して「音を創る力」も培われていったと感じる。

活動中、過去の行動を思い出して「〇〇していた時、こんな音したよ」と伝えにくる姿もあり、今後の日常生活においても音への意識、聴取力の高まりが期待された。今後はサウンドスケープを行う場所を子どもと話しあうなどして、更に考察力、想像力を喚起する活動に発展させていきたい。

図形楽譜も音に集中して描いており、のびやかな表現力がうかがえた。線画を見ながら演奏する際、用いる楽器も子どもが絵を見ながら楽器の特徴を考えて選ぶなど、自由な楽器遊びの経験をよく活かしている様子を感じた。活動後、「音のレシビを作るの」と自ら線画を作成しピアノに向かう4歳児がおり、保育者が促さなくても探索や創作に積極的な姿に活動の成果を感じた。

④ 「すくわくプログラム第一回音楽会」の実施

楽器の自由な探索で楽しみながら音への興味関心を引き出し、また音の様々な種類（きれいな音、大きな音、気持ちの良い音など）を感じ考える姿勢を身に付け、サウンドスケープ、図形楽譜で音への視野を広げたというプロセスを経たことが非常に活かされたと感じた。また広いホールでの実施や外部委託講師、演奏家との触れ合いなど日常の保育の中では得難い経験も出来たことはとても有意義な活動であった。保護者への本活動共有も一括してスムーズに行えた。保護者と音を楽しむ経験を共にすることは今後の意欲にも大きく影響すると感じ、今後も継続して行っていきたいと考えている。